
【爆走男】

とよー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【爆走男】

【Nコード】

N7524T

【作者名】

とーよー

【あらすじ】

誰かが爆走している話

眠い目をこすりテレビを付けると昨日同様、自分の住む街が映っていた。

見慣れた駅に、見慣れた公園。見慣れた風景に、大勢の報道陣。

「一体なぜ！あの人物はこの街を爆走しているのでしょうか！？」

このレポーターは昨日から何度この台詞を言えば気が済むのだろうか？…と、チャンネルを代えてはみるが、ほとんどの番組が僕の住むこの街を放送し、レポーターこそ違えど言っている事は、ほぼ一緒である。

「昨日から物凄いスピードでこの街を走り続けている人物は一体誰なのでしょう！？」

警察、自衛隊、機動隊、戦車やヘリコプターまで出動させたらしいがソイツは余裕で捕まらない。カールルイスでも捕まえる事は不可能だろう…なんてそれ所の話では無い様で、「エイリアンか宇宙人でしょう。少なくとも地球の生物ではありませんな」

「未来からやって来たオリンピック選手による挑発ですな」などなど。専門家はまったく解釈にならない発言を繰り返している。

新聞の一面はソイツで飾られ、アメリカのオバカ大統領もビックリ仰天大騒ぎ。

こりゃあ、本当に宇宙人かもしれないなあー捕まえる事は不可能だろ…と、誰もカレモが思っていた、そんな矢先の事でした。

テレビレポーターが大きな声で、こう言った。

「なんと！なんと！なんと！……！！たったいま！あの人物がコケた模様です！」

全世界のテレビカメラは一齐にソイツの顔面をズームアップで映し出し僕はギョツとした。

なぜなら街中を爆走していた人物は僕だったからである。

……僕が街中を爆走していた理由を知りたい。

そう思った僕はパジャマのまま玄関を飛び出し街中を爆走した。

しばらく行くと警察官に取り囲まれ慌てふためいている僕がいた。

正確に言うなら僕と全く同じ外見をしたヤツだ。

顔の形、体型、根拠は無いが血液型から指紋まで僕とまったく一緒である…と、言いたいくらい、そのくらい、僕にソツクリな人物である。

僕は物凄い早さで警官と野次馬と多くの報道陣をスリ抜けソイツをラチって自宅の中に連れ込んだ。

ソイツはソファアーの上にゆったり座り、湯気立ったコーヒーを飲んでいる。

「おい。どういつつもりだ？」

僕がそう言つとソイツはバン！とテーブルの上にコーヒーを置き、鬼のような形相で言った。

「オマエこそなんなんだ！ワチヨラー星からの探索隊はおれだけのはずじゃなかったのか！」

「なんだそりゃ！！ワチヨラー星ってなんなんだ！！第一！！何故オマエは僕とおなじ顔をしているんだ！！」

「はあ！？なにを言ってる！？ワチヨラー星の生物は全員この顔じゃないか！記憶喪失にでもなってしまったかバカヤロー！」

その言葉で僕はハツとした。

何故なら僕は1度記憶喪失になっている。

…と、言つてもかなり昔のことで、簡単にいうと僕には5才より前の記憶がない。

そして、5才からずっと施設で育つた僕には親もなく昔の話を聞くことも出来ずココまで育つた。

なぜだか昔から死ぬほど足が速かった。

小4でオリンピックの最高記録を抜きそうになり、周りが焦り、騒

ぎ出したので早く走るのを止め、そこからは気軽に生活して生きてきた。

そんな僕は、、、。

「……まさか……ワチヨラー星人なのですかい？」

「オマエ本当に記憶喪失？」

「…ああ。むかしね…」

「わかんねーけど、たぶん、ワチヨラー星人だよ。だって足速いじゃん。」

「…たしかに…」

僕がそう言うのとワチヨラー星人は少し気まずいとも違うがソレラシイ表情をしてコーヒーを飲み干した。

「…で？僕をワチヨラー星に連れ戻しに来たってわけかい？」

「いやいや違うよ。おれはワチヨラー星の代表として地球を偵察しに来ただけ…」

「…偵察？なんの？」

「地球を乗っ取る偵察さ」

そう言いながらワチヨラー星人はリビングにあるテレビを指差した。

そこには…

近所の駅や公園に数えきれない程のUFOが着陸している映像が映っていた。

そして…

しばらくすると、その無数にあるUFOの中から僕と同じ顔をしたワチヨラー星人達が沢山降りて来た。

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7524t/>

【爆走男】

2011年10月9日04時53分発行